

第5学年2組 英語授業案

5年2組教室

授業者 稲垣 雅成

1 単元名 Unit 5 She can run fast. He can jump high. ～○○ができること～

2 単元について

本学級の子どもたちは、ゲームやチャンツなどの活動を意欲的に取り組む姿が見られる。5年生となり、毎週クラスでの授業やAETによる授業を受け、英語に親しむ機会も多くなった。子どもたちはAETの発音を一生懸命まねしたり、AETの話す英語をしっかり聞いたりしている。また既習した単語や表現を授業始めに行うグルーptークで積極的に使う子どもの姿も見られる。しかし、ゲームやグループ活動の際には、いつも同じ子と一緒に取り組んだり、自信のなさから、初めての活動には、消極的で声も小さくなったりする子もいる。そこで、今まで以上に学級全体で繰り返し話したり、聞いたりする活動を多く取り入れ、どの子も自信をもった状態で、ゲームやグループ活動に取り組めるようにしていきたい。

本単元では、自分や友達ができることやできないことについて伝える表現の仕方を知り、尋ねたり答えたりする活動を通して、伝え合う喜びを感じながら、積極的に関わろうとする態度を養うことをねらいとしている。

単元の導入では、豊川小学校にいる先生にできることやできないことをインタビューして、「この先生はだれでしょう”Who is he/she?”“クイズ大会”を行うことを伝える。クイズ大会のためにできることやできないことを英語で質問したいという意欲をもたせる。また、“Can you～?”や“Yes,I can.” “No,I canot.”の表現の定着を図るために、AETの英語の授業でも行った”Grid interview game”をActivityで行っていく。単元中盤では、第三者を紹介するためには、今まで使ってきた一人称や二人称では紹介できないことに気づかせる。”He/She”の使い分けの定着を図るためにActivityでは有名人の顔写真やアニメキャラクターのイラストを用いた”He or She game”を行う。これらのActivityを通して、インタビューの仕方やクイズでの紹介の仕方の定着を図る。そして、単元終盤では、実際に先生に対してインタビューをしに行き、学んだことを活用できる場を作り、コミュニケーションポイントを意識したインタビューをさせたい。そして、本時であるクイズ大会では、自信をもってクイズを出し合い、コミュニケーションがとれている姿を期待している。

そのために単元を通して、温かい雰囲気の中で活動が行えるように「コミュニケーションポイント」を意識させる。「リアクション(相づちやジェスチャー)」「スマイル」「アイコンタクト」などは、相手を受け入れているというサインとして、円滑なコミュニケーションに欠かせないものばかりである。このコミュニケーションポイントを、話し手・聞き手双方の立場から意識して、活動に参加できるよう、繰り返し声をかけていく。また、「アドバイスタイム」をActivityの途中に入れ、よりよいコミュニケーションを意識していたかどうか振り返る時間も確保する。

本単元を通して、コミュニケーションに対する肯定的な自己評価や他者評価を積み重ねていくことで、一人一人に英語での会話に対する自信をつけさせたい。そして、先生に英語でインタビューをするという活動を通して、クラスの友達以外の人に対しても積極的に英語で話そうとする自信と意欲が高まることを期待する。

3 目標

- ・自分や第三者について、できることやできないことを紹介し合おうとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・自分や第三者について、できることやできないことを、尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。また、小文字を読むことに慣れ親しむ。
(外国語への慣れ親しみ)
- ・言語や人、それぞれに違いがあることに気づく。
(言語や文化に関する気付き)

4 単元計画(8時間完了)

- ・自分のできることを紹介したり、友達にできることを尋ねたりする方法を知る・・・②
- ・どのようなことができるか、友達に尋ねたり答えたりする・・・②
- ・第三者についてできることやできないことを表す表現があることを知る・・・①
- ・先生にインタビューをして結果をまとめ、先生クイズをクラスで行う・・・③(本時3/3)

5 本時の授業（8／8）

(1) 目標

- ・第三者について、できることやできないことを紹介し合おうとする。



(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(2) 準備

教師：He or She ゲーム用カード Look back カード

児童：紹介用話型ワークシート

(3) 授業過程

学 習 活 動		・手立て ・伝えるつながる手立て ☆支援 評価
ゆめ力	<p>【Warm up】</p> <p>○ペアさいころトーク</p> <p>○He or She ゲームをする</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>can</p> <p>cannot</p> <p>He</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>can</p> <p>cannot</p> <p>She</p> </div> </div> <p>○本時のめあてをもたせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアさいころトークでは既習内容の表現を含んだものにする事で前時の内容の確認と定着を促す。 ・He と She とに分類しながら有名人の顔写真やアニメキャラクターのイラストを用いることで、He と She の使い分けと単語の復習に意欲をもたせる。 ・コミュニケーションポイントを示し、活動するときに意識するように伝える。
自分力	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>この先生はだれでしょう” Who is he/she? “クイズ大会</p> </div> <p>【Practice】</p> <p>○本時で使う単語の復習をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>A: He/She can ～.</p> <p> He/She can ～.</p> <p> He/She cannot ～.</p> <p> Look! (似顔絵見せる) Who is he/she?</p> <p>B: He/She is (名前).</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>Yes の場合</p> <p>A: Yes, that's right.</p> <p>B: yeah!!</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>No の場合</p> <p>A: No, that's wrong.</p> <p> Try again.</p> <p>B: もう一度答える。</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が行うデモンストレーションでは動作を表す単語を言う際にジェスチャーを交えながら行うことで、ジェスチャーが相手により伝えやすくするポイントの1つであることに気づかせる。
つながり力	<p>☆A 児や B 児には、自分が紹介する先生が、He で表すのか She で表すのか個別に確認し、単語の読み方など自信をつけさせてから活動に取り組みさせる。</p>	<p>コミュニケーション・ポイント ~Communication・point~</p> <ul style="list-style-type: none"> ★アイコンタクト ★スマイル ★あいざつをむすびずに ★名前をよびつ ★あいづち ★クリアーボイス(聞き取りやすい声)
学び力	<p>【Activity】</p> <p>○前半グループがクイズを出す。</p> <p>○アドバイスタイム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリアボイス、アイコンタクトができたよ ・〇〇さんのジェスチャーがわかりやすかった ・”cannot”のときの”not”をはっきり言わないときちゃんと伝わらないね <p>○後半グループがクイズを出す。</p> <p>【Look back】</p> <p>○振り返りカードを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・”he” と”she”を意識して聞いたから男の先生か女の先生か聞き分けることができたよ ・アドバイスを意識してクイズ発表ができたよ 	<p>♡ 【つながりタイム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスタイムで、名前が挙がった児童を手本として全体の前で発表させることで、後半の活動につなげる意識をもたせる。 ・よかった点だけでなく、よりよいコミュニケーションのために気をつける点についても板書に残すことで、後半の活動で気をつけたいことを意識させる。 ・前半の活動よりもよかった部分を見つけた児童には、その場でよかった点を認める声かけをするように伝える。
<p>第三者について、できることやできないことを紹介し合おうとする。</p> <p style="text-align: right;">(活動の様子・振り返りカードから)</p>		